

としょかん つうしん

通巻39号

(平成19年6月)

編集・発行 印西市立大森図書館

図書館ホームページ

・パソコン から・・・

<http://www.library.city.inzai.chiba.jp/>

・i-mode から・・・

<http://www.library.city.inzai.chiba.jp/i/>

「返却ポスト」を知っていますか？

「図書館って今日は5時までだっけ？」
「そうだよ」
「あ～あ、今日までに返さなくちゃいけない本があったんだよなあ。もう図書館は閉まってるし、どーしよーかなー」
「じゃあ、返却ポストに返してくれば？」
「返却ポストってなに??」

返却ポストの場所はどこ？

大森図書館	建物入口左手
小林図書館	建物入口右手
そうふけ図書館	正面玄関入口左手
小倉台図書館	緑道側入口右手

...ということで、今回の特集は「返却ポスト」についてです。

みなさんは「返却ポスト」をご存知でしょうか？ 「返却ポスト」または「ブックポスト」とは、図書館が閉館しているときに、本や雑誌といった資料を投入口に入れて返却できるポストのことをいいます。ただし、この返却ポストは、CD やビデオ・DVD といった視聴覚資料や紙芝居は利用できませんのでご注意ください。

さて、ではなぜ視聴覚資料や紙芝居はポストに入れてはいけないのか？ そう思われる方も多いと思います。それを説明する前に、まずはポストの中を見ていただきましょう。



左の写真は小倉台図書館の返却ポストの中です。投入口から入れられた本はローラーのすべり台(のようなもの)を通して、ゆるやかに下に落ちます。それがたまと本の山となり、職員が出勤した朝のうちに取り出して返却処理をします。視聴覚資料のケースは衝撃に弱く、ゆるやかとはいえ、ある程度の高さから落ちたり、その上に本が落ちてきたりするので、どうしてもケースが壊れてしまう可能性が高く、それに伴い中のディスクやテープが破損する恐れがあります。紙芝居も同様に破損のおそれがあるのと、大きいので投入口がつかまってしまうことも考えられます。こういったことを防ぐために視聴覚資料と紙芝居に関しては返却ポストを使わず、直接カウンターにお返しいただけるようお願いしています。

としょかんカードについてお知らせ

利用者の登録データは定期的に整理しています。

本を借りる際に使われている「としょかんカード」ですが、3年間全く使用していない場合、登録されたデータが削除されますのでご注意ください。

データ削除された場合は改めて新規登録していただくことになります。来館された際に、図書館カード申込書に必要事項を記入の上、住所等が確認できるものを添えて図書館窓口にて再度申請をして下さい。(カード自体はそのままご使用になれますので、お持ちになって来館して下さい)



図書館・これからの催し

～ 科学あそび(小倉台図書館)～

毎年恒例の科学あそび、今年もやります！
今回は「ゴム風船」を使ってゴムの不思議についての実験や工作をする予定です！是非ご参加ください。



日時：7月26日(木) 午前10時から
場所：小倉台図書館 集会室
対象：小学4年生から6年生まで
定員：12名(先着順) 参加費無料です
申込み・お問合せ：
小倉台図書館カウンターもしくは電話で(7/1(日)より)

～ おはなし会のおしらせ～

各図書館で毎月定期的におはなし会を行っています。ぜひお気軽にお立ち寄り下さい。

大森図書館 (おはなし室)	第2・4土曜日 午後3時～
小林図書館 (遊戯室)	第4土曜日 午後3時～
そうふけ図書館 (おはなしのへや)	第1～4土曜日 午後3時～
小倉台図書館 (おはなし室)	第1・3木曜日 午後3時半～

楽しかったね！ 行事報告

4/23から5/12までの「こどもの読書週間」にあわせて、各図書館では色々な催しを行いました。ここでは簡単にその模様をお知らせします。

としょかんクイズ

小林図書館と小倉台図書館の2館で行なわれた「としょかんクイズ」。本や物語に関するさまざまな問題に、記憶をたよりに、もしくは図書館の本を調べて、一所懸命取り組んでいました。

<小林図書館>

小林図書館では、毎年恒例行事となり参加者は19人。友だちと一緒に本を探して答えを考える子どもたちが多かったです。本を読んでいない子も、館内の資料検索機(OPAC)で本を見つけ出し、その場で読んでいる姿もありました。

<小倉台図書館>

参加者は26人。結構簡単だったのか、ほとんどの子が手早く解答用紙に答えを書いて提出してきました。でも、最後の問題で落とし穴が...。全問正解して賞状をゲットできたのはわずか5人のみでした。

子どもの本特別展示

<大森図書館> 「子どもの本」(図書館の学校発行)おすすめの本を展示。

<そうふけ図書館> 全国図書館協議会発行の「第23回選定 よい絵本」の展示。



春のおはなし会

<大森図書館> 地域ボランティア『ブレーメン』の吉田氏と一緒に恒例の「春のおはなし会」。た抜き「春がきた」の歌をみんなで歌い、絵本「やさいのおなか」のなかにあるやさいを切ったシルエットが何のやさいかをあてるなど、楽しい時間を過ごせました。



図書館からのお知らせ

～ 蔵書点検とは?? ～

毎年1回、長期の閉館期間を設けて行なっている「蔵書点検」とは一体なんなのか...? 簡単にいってしまうと、図書館の本や雑誌、視聴覚資料といった全ての資料の所在を調べる作業のことをいいます。

作業としては、ノートパソコンや小型の専用機器を使って、棚に並んでいる資料全てのバーコードを読み取って、貸出中や予約されているもの、修理中のものなどを除いた「利用可能」な状態の資料がちゃんと棚にあるかどうかを照合します。

一言「作業」といっても、これがなかなかの重労働! 棚の上から下へ、端から端へと体を動かさなければならず、腕も上げっぱなしの状態が長時間続くので、ひどい筋肉痛や肩こりに悩まされる人も...

図書館職員総出で市内4館の棚にある数十万点もの資料のバーコードを読み取るには、どうしても長期間図書館をお休みしなければなりません。みなさまにはご不便をおかけすると思いますが、書架を整理し、よりよい状態でご利用いただくために行なっていますので、何卒ご理解いただきたいと思います。



～ H18 年度蔵書点検の報告 ～

今年の2月19日(月)から28日(水)の10日間にかけて行いました蔵書点検の報告を致します。

2月末現在の蔵書数が4館あわせて、図書: 423,190冊、雑誌: 15,694冊、視聴覚資料: 11,585点ありました。その中の「利用可能」の資料をチェックした結果、全体の0.47%(図書: 1,988冊、雑誌: 119冊、視聴覚資料: 5点)の資料が、残念ながら所在不明として見つかることができませんでした。

図書館の資料はたくさんの方に利用してもらうための大切な財産です。この財産を、有効に活用できるように、図書館職員も資料の管理に努めてまいります。また、貸出・返却など、ご利用の際は行き違いのないようにカウンターまで資料をお持ちいただき手続きをしていただけますよう、ご協力をお願いいたします。

図書館人気の本

(平成19年5月25日現在)

名もなき毒	宮部みゆき / 著
東京タワー	リリー・フランキー / 著
陰日向に咲く	劇団ひとり / 著
使命と魂のリミット	東野圭吾 / 著
一瞬の風になれ ~	佐藤多佳子 / 著
風が強く吹いている	三浦しをん / 著
鈍感力	渡辺淳一 / 著
最愛	真保裕一 / 著
夜は短し歩けよ乙女	森見登美彦 / 著
家日和	奥田英朗 / 著

トップ5は前回と変わらず。
は山本周五郎賞受賞作です。

上記の本は非常に人気があり、リクエストをしていただいても長期にわたりお待ちいただくこととなります。ご了承下さい。

この本、
おすすめです！

6月といえば梅雨の季節...

じめじめして、洗濯物は乾かないし、食べ物はすぐ傷むし、いや～な時期ですよ。でも、そんな時だからこそ、家で読書でもしてゆったりした時間を過ごしてみたいはかがでしよう？

今回のキーワードは「旅」。気持ちだけでも外へ飛び出しましょう！

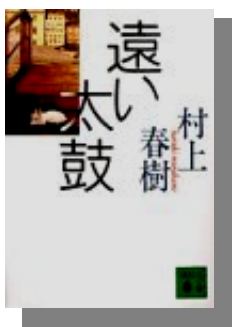
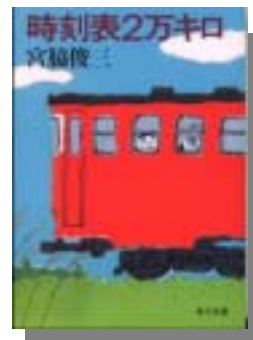


「人生の旅をゆく」 よしもとばなな / 著 (日本放送出版協会) —

行楽であったり、変化を求めるためであったり、私たちにとって様々な意味をもつ旅。何かが得られたり、日常生活から離れることで新たな自己発見があるなど、帰後の充足感は格別です。でもそれは一方で“もう前と同じ自分では帰ってこられない”ことでもあります。だからこそ“旅立つ前の自分を惜しむ”という作者の言葉は新鮮で意味深く感じられます。作者独特の視点で描かれたいくつもの旅。読後、ゆったりとした気持ちになれそうです。

「時刻表2万キロ」 宮脇俊三 / 著 (角川書店) —

趣味が高じて鉄道紀行の作家になった作者による国鉄(現在はJR)全線完乗記です。今から20年以上前に書かれているため、すでに廃止になった列車、路線などが数多く登場してきて、読んでいて懐かしい思いがしました。著者が少ない休みを利用し、遠いところでは北海道や九州まで出かけて、いかに効率よく地方のほとんど列車が走らない路線を乗りつぶしていくかは、半分ミステリーを読んでいるみたいでわくわくさせてくれます。



「遠い太鼓」 村上春樹 / 著 (講談社) —

これは村上氏が3年間海外(ギリシアとイタリア)で過ごした様子を描いたものです。「過ごした」とありますが、それは長期間とはいっても一時的にすぎず、あくまで「旅人」として書かれた旅行記です。異国の地で生活をする新鮮さや文化の違いからくるやっかいな出来事などが、決してオーバーな文章ではないけれど、生き生きと巧みに表現されていて、とても楽しめる紀行文です。ちなみにこの海外生活の間に書かれたのが、有名な「ノルウェイの森」とのことです。

表紙画像は出版社に許諾を得て掲載しております。

図書館についてのお問い合わせは、
もよりの図書館まで！

大森図書館・・・ 42 - 8686
小林図書館・・・ 97 - 0005
そうふけ図書館・・・ 45 - 2566
小倉台図書館・・・ 47 - 5511

編集
後記

皆さんがこの文章を読んでいる今、天気はどんな様子ですか？この原稿をまとめている5月の中旬、やたらと天候が不安定で雷はあたりまえ、たまに雹も降ってくるとい、何とも落ち着かない日々が続いています。それでも今日はとてもいい天気、夏の到来を予感させますが、この先に待っているのは憂鬱な梅雨があ...。(T・A)